

舵輪

二月の行事

「餅つき大会」

一月二十二日、曇のち雪のあまり条件の良くない天気の中、餅つき大会が行われました。この天気にも関わらず、多くの見学者が訪れ、餅や豚汁で、体を暖めたり、一緒に餅をついたりして、餅つき大会を大いに楽しんでいました。

十一時頃突然、にわか雪（あられ）となり、作業は一時中断、場所をウエルデツキに移し、餅つきを再開しました。餅は八十キログラム全てをつき終え、大会は終了。海王丸各部に鏡餅を供えることができました。参加者の皆様、どうもお疲れさまでした。

「鏡開き大会」

年が変わり、一月十三日鏡開き大会が行われました。この時期に珍しく晴れで、百名を超える見学者にせんざいを振る舞うことができました。多くの見学者に振る舞えたのは良かったのですが、ボランティアの協力で作られたせんざいの素が少々足りなかったのが残念です。（餅は鏡餅の分で十分対応できました。）雪の中で行われた昨年度と違い、大変賑やかな鏡開き大会でありました。参加者の皆様、どうもお疲れさまでした。

「一月ボランティア研修」

一月二十日午後、ボランティア研修が行われました。参加者は二十一名で内容は、船内案内ボランティアとして必要な注意事項、船内案内のポイントなどを中心に説明が行われました。その後は船内の案内と要点的説明が行われ、普段立ち入れない機関室や操舵機室などの見学を含め、船内をくまなく見回りました。

参加した皆様、船内案内実現に向けて頑張りましょう。今回参加できなかった方々も二・三月に研修のチャンスがあります。時間が許せば参加して下さい。

SPRING HEAVEN BRACE

帆船の帆に流れる風について

以前の舵輪で帆船はどうして風に向かって走れるのかというお話をしました。今回は帆に流れる風はどのような状態になっているのかというお話をします。

昨年一年間、総帆展帆の時、ミズンマストのロアートップセイルに細い毛糸の風見をつけてあったのに皆さんはお気づきだっただけでしょうか。昨年十回の展帆がありました。実は海王丸の帆に流れる風の流れについて観測を続けていました。昔から見えない風をどのようにして知るのか「流体力学」という学問の分野でいろいろの研究がなされてきました。例えば、新しい飛行機や車の開発などは風洞実験が行われ、その観測データを元に開発が進められているわけです。

帆船は風の力が頼りです。いかに風を掴むか、その風をいかにセイルに効率よく入れて船を走らせるかが航海者の技術でした。

さてどのようにして普段見えない風を見るようにするのでしょうか。これを専門用語では「流れの可視化」といいます。その方法はいくつもありますが、その一つが今回のような風見です。いくつもの風見を取付け、全体の流れを知る方法です。また、煙を利用する方法等もあります。

専門的には「風洞」と呼ばれる設備を使いますが、模型での実験がよく用いられるのですが、実物ではなかなか行うことが難しいですね。それを模型で確かめる方法が一般的です。

今回、海王丸のセイルに取り付けた風見から図のような流れがあることを知ることができました。帆に入った風の流は、風上側で帆に入り、その後、セイルから流れが離れる所があります。この部分を剥離層（はくりそう）といいます。この部分では流れが乱れます。剥離した流れは、あるところで再び帆面に戻ってきます。これを「再付着」といいます。風見の向きにより今回はそれらを目で見られるようにしていた訳です。

これらの流れの状態を知った上で操船

に生かしていくことが帆船をより速く走らせることへつながります。（ここでは、いかに海王丸を美しく見せるかになります。）

私も海王丸乗船中に当時のキャプテンから風の海域で「海面を見て風を知れ」と教わりました。凧いで油を流したような海面でも風が吹き出し始めるとざわめくというのです。風の流れを目で知れということですね。

「風を感じて」私の好きな言葉の一つです。このことを帆船乗りは身体で覚えて行くのです。

皆さんも今年は総帆展帆のあと、ご自分達の手で上げたセイルを見上げて下さい。きっと何かの発見ができますよ。。

では今回はこの辺で・・・。

（熊田）

ボランティア特別寄稿

こころの旅（時間を楽しむということ）

ボランティア 藤井 睦子

海王丸という帆船は、私にとって夢の世界です。その夢の一つに、海王丸を通しての多くの方との交流があります。ボランティアや財団職員との交流として例えれば、「ボランティアの集い」や総帆展帆終了後の反省会などがその絶好の場であると思います。久々に顔を合わせるボランティアや財団職員と語り合うことはとても楽しいことです。しかしそれだけでは何か物足りないような気がします。何が足りないのでしょうか・・・。それは自由に本音や意見などを交換する場がないからだと思います。

「ボランティアの集い」が終わっても、参加者で口々に本音や意見を語り合い、集まって、更に話し合いを行うことがあります。そうするといろいろな意見や、思想を知ることが出来ます。その時間は、私にとって、自由に語り合い、絆を深める「こころの旅」の時間であると思っています。

「ボランティアの集い」や「反省会」で、多くを語れなかったり、十分楽しめない方が、会が終了しても、事情等により、早々と帰宅する方がいます。しかしそれは、参加することに自己満足しているだけ、貴重な時間を十分に楽しんでいるとは思えないのです。多くを語らず、本音や意見を自分の胸にしまい込んで帰るだけでは、周りや自分の発展に効果がありません。

働く女性、仕事を持つ男性も「総帆展帆」や「ボランティアの集い」などは大切であると思います。しかし、更に一歩踏み込み、お互いに自由に語れる憩いの場を作れば、更にボランティアの絆を深め合い、広い世界を知ることが出来るのではないのでしょうか。それが「こころの旅」・・・時間を有効に楽しむことと私は思います。皆様も、貴重な時間を楽しく有効に利用してみたいかがでしようか。

舵輪

三 四 月 期 主 題 事 件

「二月十四日は海王丸の誕生日」

バレンタインチョココレートが店頭に並ぶ時期になってきました。そのバレンタインデーは海王丸が進水した日でもありません。二月十四日(木)海王丸から愛を込めて、先着三百名様にチョココレートを配布します。また、この日は満船飾を行います。海王丸の七十二歳を祝って下さい。

「二月ボランティア研修」

一月に行われたボランティア研修で行った「船内案内研修」の実践(前回来れなかった方は船内案内の説明を行います。)今年の「海の日」に行う予定の「登しよう礼(ヤード配置)」の概要の説明を行います。日時等については左のとおりです。

日時 平成十四年二月二十四日(日)
午後一時～午後四時

場所 海王丸第一教室

内容 船内案内研修
登しよう礼概要

持ち物 一月の研修に来られた方は、配布した教本

返信葉書に参加・不参加の記入をお願いします。

「ペンディングセイル」

平成十四年度の展帆に備えセイルの取付作業「ペンディングセイル」を行います。多くの方のご協力をお願いします。

なおペンディングセイルは天候の都合により予定を変更する場合があります。その時は、今回出席を予定されている方に連絡をいたします。

日時 平成十四年 三月十一日(日)
三月十一日(月)

集合・打合わせ 午前 八時 三十分

作業時間 午前九時～午後四時

集合場所 海王丸 第一教室

持ち物 作業服・高所作業帽・防寒対策の衣類、タオル等

返信葉書に、参加・不参加の記入をお願いします。

「三月ボランティア研修」

二月に行われるボランティア研修の続きです。実践に近い形で船内案内及びヤード配置の登しよう礼の説明、配置の決定などを行います。

日時 平成十四年三月二十四日(日)
午後一時～午後四時

場所 海王丸第一教室

内容 午後一時から 登しよう礼説明
説明終了後 船内案内訓練

返信葉書に参加・不参加の記入をお願いします。

持ち物 「二月ボランティア研修」同様

「四月ボランティア再訓練」

ボランティアの再訓練を行います。総展帆前に訓練を受けておきましょう。予定は左のとおりです。

日時 平成十四年 四月 六日(土)
四月 七日(日)

集合時刻 午後一時

集合場所 海王丸 第一教室
持ち物 「ペンディングセイル」同様

返信葉書に、参加・不参加の記入をお願いします。

「四月ボランティアの集い」速報

四月のボランティアの集いの会場が決まりましたので連絡します。詳しい内容等は次回の舵輪に掲載します。皆様の参加をお待ちしています。

日時 平成十四年 四月二十日(土)
午後六時半～八時半

場所 第一イン新湊 (新湊市内)

次回の「舵輪」で参加・不参加の連絡をお願いします。

その他情報

「元気に富山(海王丸ボランティア版)」放映される

富山のイメージアップコーナー「元気に富山」で、昨年に収録された海王丸ボランティアバージョンが、一月から放映されています(時間十五秒)。海王丸に惚れ込んだ玉井さんを中心に海王丸ボランティアを大きくPRする内容となっております。民放三局で放映されていますので、見られた方も多いと思いますが、もし見えていない方で「見たい」という方は当財団まで来て下さい。(当財団にビデオテープがあります。)

今年の新規ボランティアイベント等

今年は何年の活動以外に次のイベントを企画しています。

「ボランティアによる船内案内」
五月五日から総展帆日の昼休み時間に行います。活動は、研修を受けた案内ボランティアを対象とします。

「登しよう礼」
七月二十日(祝)「海の日」に行います。今回はヤード配置の登しよう礼です。参加希望者はできるだけ三

月の研修に参加して下さい。基本的な登しよう礼の配置をこの日に決めます。多くの方の参加をお待ちしています。

「移動海洋教室」について

当財団は昨年度から、冬のオフシーズンの期間を中心に、移動海洋教室を行っております。こちらから出張して、無料で、海のお話、結索実習や手旗信号などを行います。対象は小学四～中学三年で、三十名以上の団体としております。詳しい内容、資料が必要な方は当財団に連絡下さい。

甲板ボランティア参加者募集

現在海王丸では総帆展帆に向けて、セイルの補修を中心に作業を行っています。甲板作業希望者は帆船海王丸記念財団に連絡の上、作業に参加して下さい。(なお甲板ボランティアにも精勤賞、紺青賞等あります。)

あとがき

遅くなりましたが、あけましておめでとうございます。今年度も宜しくお願います。餅つき大会、鏡開き大会も多くの人が参加され、無事終了する事ができました。この二つの大会で、ボランティアの皆様の絆の強さを見たような気がします。

船内案内ボランティア養成のため教本を作製しましたが、海王丸を調べて行くうちに数多くの発見や、研修に参加された元乗組員の塗師さんから、現役当時の話などを聞くことにより、五十九年の航海を行った海王丸の素晴らしい歴史をつくづく感じました。輝かしい海王丸の歴史を多くの方に伝えたいものです。今回の教本は船内案内を中心としています。次回(来年度)は、船の生活、帆走理論など、船内案内の補足事項となる内容の教本を作製したいと思っています。ご期待下さい。四月からまた展帆が始まります。くれぐれ各自お体に気をつけて下さい。皆様に再会できる日を楽しみにしています。(ほ)